

企画展「ジオパークに行こう！」

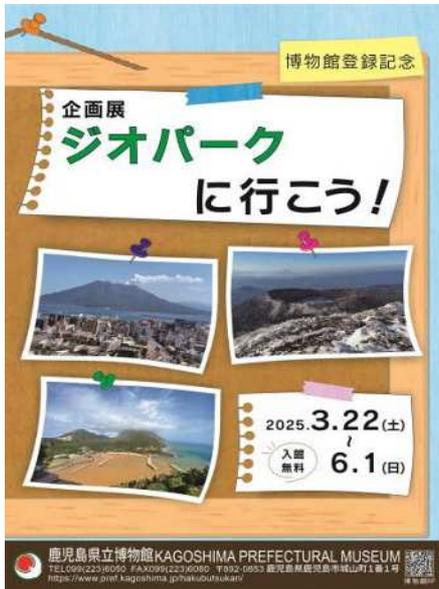
県立博物館

ジオパークって何？

県立博物館では、令和7年3月22日（土）から6月1日（日）まで、企画展「ジオパークに行こう！」を開催します。

ジオパーク（Geopark）とは、大地を意味するジオ（Geo）と公園を意味するパーク（Park）を合わせた造語です。ジオパーク内には、地質・地形・自然・歴史・文化など、そのジオパークを特徴づける見学場所として、ジオサイトが設けられています。

私たち人間は、動物や植物といった生き物たち



【企画展ポスター（表）】

とともに、大地の上で暮らしており、地形や地質は人々の暮らしや文化と密接に関わっています。ジオパークでは、その地域に特徴的な地形・地質（地質遺産）を保護しつつ、大地の成り立ちや人々との関りを学んだり、地質遺産

を活かしたジオツーリズムを実施したりすることで、地域の持続的な発展を目指しています。

2025年1月現在、日本ジオパークは48地域あり、そのうち10地域がユネスコ世界ジオパークに認定されています。鹿児島県には、「霧島ジオパーク」、「桜島・錦江湾ジオパーク」、「三島村・鬼界カルデラジオパーク」の3つのジオパークがあり、北海道の6つ、秋田県の4つに次いで、都道府県ごとの数では3番目の多さです。また、2024年に「世界地質遺産100選」に選ばれた喜界島も、日本ジオパークへの認定を目指しています。さらに、薩摩川内市甕島や長島町獅子島では恐竜化石の発見が相次ぐなど、鹿児島は貴重な地質遺産を数多く有している県だと言えるでしょう。

県内の3つのジオパーク

「霧島ジオパーク」は、宮崎県と鹿児島県にまたがる霧島山を中心とした地域にあります。大小20あまりの火山からなる霧島山の美しい景観と多様で豊かな自然、そして火山に対する畏敬の念を今に伝える信仰や文化が魅力です。2022年に社殿が国宝に指定された霧島神宮も、度重なる火山活動によって移転を繰り返してきました。



【霧島神宮元宮】

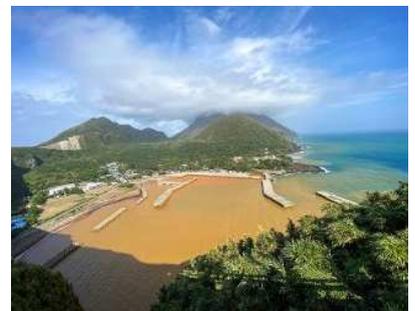
「桜島・錦江湾ジオパーク」は、鹿児島湾奥の始良

カルデラや桜島を中心とするエリアで、噴火を繰り返す活火山である桜島のすぐそばに人口60万人の都市があることから、活火山と人との共生が大きなテーマになっています。始良カルデラは、約3万年前の巨大噴火で誕生し、この時噴出した火砕流堆積物がシラスと呼ばれています。今でも海



底から噴気があがっており、海面に泡が湧き上がる様子は、「たぎり」と呼ばれています。

「三島村・鬼界カルデラジオパーク」は、竹島、硫黄島、黒島と鬼界カルデラの海域を範囲としています。約7,300年前に起きた巨大噴火とその後の火山活動が作った地形・地質などの自然、そこに暮らす人々との関わりが主な見どころです。ジオパークの総人口が400人足らずと、おそらく世界最小のジオパークであることも、このジオパークの大きな特徴となっています。



【温泉水で変色した硫黄島港】

企画展では、ジオパークのほかにも県内各地の見ごたえある地質遺産を紹介します。